



KOHOKU 9

広報よこはま港北区版 No.323 2024

広報よこはま
港北区版を
スマホで読む



港北区 X



いざという時に大切な命を守るために

“災害に強いまち”は、一人ひとりの備えから

災害発生時に、自身や家族の大切な命を守るための備えはできていますか。市は、避難所として学校等を「地域防災拠点」に指定し、大地震に備えています。まずは一人ひとりの備えが重要です。

避難の考え方を確認し、家具の転倒防止対策や食料・生活用品等の備蓄に取り組むことが、被害の軽減につながります。

地震が発生した時の避難の考え方

判断1 自宅の危険性を確認

- 自宅や隣家の倒壊・火災等の危険がないか
- 生活できないほど家具や食器が散乱していないか

危険がなければ判断2へ

判断2 自宅で生活できるか確認

住み慣れた自宅で生活することにより、感染症のリスク低減や、集団生活のストレスを感じることなく過ごすことができます。

- 生活していくためのサポートが必要か
- 必要な備蓄品があり、使える状態か

自宅での生活が
できなければ、
地域防災拠点へ

備蓄品等を用いて
自宅で生活
できる

備蓄品の準備等、
在宅避難の
ポイントはこちら



地域防災拠点

在宅避難

地域防災拠点ってどんな場所？

<地域防災拠点の役割>

避難生活を送る

安否確認や被害状況の
情報を収集・発信する

救助・救出活動の
拠点となる

在宅避難者が食料等を
確保できる

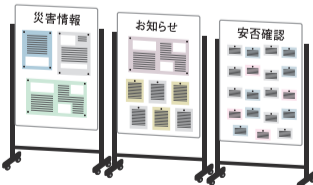
地域防災拠点は、自宅で生活できない場合に避難する場所です。発災直後に避難してきた人が使用する食料やトイレパック等の生活用品を備蓄しています。地域の人を中心に、発災時のスムーズな開設・運営に向け、毎年訓練が実施されています。

一方で、収容人数や備蓄数量には限りがあり、プライバシーの確保や集団生活によるストレスを感じる等の課題もあります。在宅避難も選択できるよう、**最低でも3日分の備蓄品を用意**しましょう。

地域防災拠点の活用方法 ～中長期的に在宅避難を行う場合～

・ 救援物資の情報や開設している医療機関の情報等、様々な情報が地域防災拠点に集まります。定期的に情報収集をしましょう。

・ 発災から数日経つと、支援物資が地域防災拠点に集まってきます。必要に応じて提供を受けましょう。



日頃から家の中の安全対策に取り組みましょう

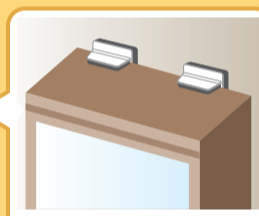
熊本地震と能登半島地震で人が亡くなった原因として、**建物の倒壊や家具の転倒による圧死**が最も多く、いずれも全体の約4割*でした。ホームセンター等の身近な場所で購入できる安全対策グッズを使って、家具の転倒防止等、家の中の安全対策を行いましょう！



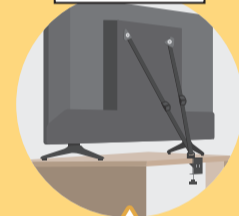
熊本地震で被災した事業所の様子
提供:特定非営利活動法人KIプロジェクト



正しい設置位置は、
家具の両端と壁に
近い奥側です



家具を壁に固定する
ための家具転倒防止
器具もあります



テレビ等は揺れにより
前に飛ぶ可能性があり
ます



転倒防止マット



耐震ジェル



飛散防止フィルム

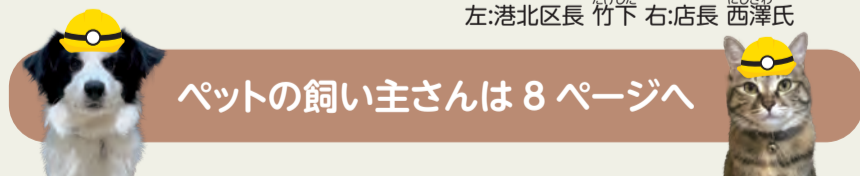
事業者と協力して“災害に強いまち”を目指します！

区内で大規模災害が発生した際の被害や混乱を抑制することを目的に、イオンスタイル横浜高田(高田西1-1-47)と区役所で防災協定を締結しました。店舗の駐車場を一時的な避難場所として活用することや、日頃から店舗において防災情報の発信を行うこととしています。

今後も、区内の事業者や団体の皆さんと連携して、災害に強いまちづくりを進めます。



協定締結の様子
左:港北区長 竹下 右:店長 西澤氏



ペットの飼い主さんは8ページへ

●問合せ 総務課 防災担当 ☎045-540-2206 📠045-540-2209

港北区役所

〒222-0032
港北区大豆戸町 26-1
☎045-540-2323(代表)
📠045-540-2227

開庁日

なるべく電車・バスで
ご来庁ください

月～金曜(祝休日・年末年始除く) 8時45分～17時
第2・4土曜 9時～12時
(戸籍課・保険年金課・子ども家庭支援課の一部の窓口)

港北区の
データ
(2024年
8月1日現在)

人口 364,878
世帯数 183,099